

本との 出会いを 楽しむ

第 25 回

教師の本棚

「大切なあなたへ」

花田 美衣

弘前大学教育学部卒業。平川市で臨時講師として勤務した後、中学校教員として三八管内に採用。いくつかの学校を経て、現在は小中一貫三戸学園三戸町立三戸中学校に勤務しながら教職大学院に在籍。



現在、中学校で理科の教員として働いています。学級担任をしているとき、学級の一角に学級文庫を置くようにしています。私が学級文庫として置く本は、学級“文庫”とはいうものの、小説や学術書もあれば、写真集、誌集、漫画など、種類はさまざまです。ジャンルを問わず、学級の子供達に読んでみて欲しいと思うものを選んでいきます。時には道徳の授業の教材として使うこともあります。今回は、その学級文庫の中から、一冊の絵本を紹介させていただきます。

絵本というと、小さな子どものためのもの、というイメージが強いかもしれません。確かに、絵本の多くは基本的に子どもを対象に作られており、絵・文章・構成ともにシンプルで分かりやすいものがほとんどです。しかし、近年では「大人の絵本コーナー」がある書店も見られ、年齢を問わず楽しめるものがたくさん紹介されています。

『世界でたったひとりの大切なあなたへ 12の贈り物』もまた、幼児期の子どもよりは大人の方が心に響くと思います。すべての人に平等に授かっている「12の贈り物」。それらが一つ一つていねいに優しい言葉で、美しい絵とともに綴られています。著者シャーリーン・コンスタンゾ自身が、ご自分の子どもたちに向けて書かれた本です。親として子に伝えたいことが、「12の贈り物」としてまとめられています。そして最後に、もうひとつ、最高の贈り

物が授けられていることが明かされます。それは、一番身近なものです。しかし、身近すぎて知らず知らずのうちに、一番おざなりしてしまいがちなもの。何だかわかりますか？…正解は「あなた自身」です。

道徳でこの本を紹介するのは、この最高の贈り物である「あなた自身」を大切にしたいという願いを伝えたいときです。思春期になると、自分を肯定できなかったり、他の子に対する嫉妬から問題を起こしたりすることがあります。そうならないためにも、ありのままの自分を受け入れ、一度きりの人生を素晴らしいものにするためにも…。子ども達にはたくさん可能性があります。自分を信じて大切に生きていけば、さらにもっと可能性が広がるはずです。

進路に悩んだとき、自信を失ったとき…読む時々の自分のコンディション・状況によって、自分の中にずっと入ってくる言葉が違う気がします。どんなときにもそっと心に寄り添ってくれる一冊だと思います。是非『世界でたったひとりの大切なあなたへ 12の贈り物』をご一読下さい。
(はなだ よしえ)

本館所蔵

「12の贈り物
世界でたったひとりの
大切なあなたへ」
C.Constanzo 著
黒井健 訳・絵

726.6
C88j

開架図書 (本館 2F)